

主要産地における平成26年産水稻の生育状況等について 第9報 (7月29日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部(平成26年7月30日)

道府県	育苗・田穂進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)		生育状況等
	区分	育苗・田穂進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)	生育状況等
北海道		<p>(全道) 7月前半は、気温が高く、おおむね平年並の日照時間であった。降水量は少ない地域がある一方、台風の影響などで局部的に雨が降った地域もあったが、全体的には順調に生育している。草丈：やや長い、葉数：平年並、葉数：やや多い。</p> <p>生育は平年並より早く、順調に進んでいる。草丈：やや長い、葉数：平年並、葉数：やや多い。</p> <p>北海道農政部 7月15日現在</p>	<p>・注情報一 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月18日発表)</p> <p>・アカヒゲホソドリカメが早発・多発している(北海道病害虫防除所 7月18日公表)</p>
青森		<p>(生育) (空知) 生育は順調に進んでいる(早4日)。草丈：平年並、葉数：平年並、葉数：やや多。(空知総合振興局7月15日現在)</p> <p>(石狩) 生育は順調である(早4日)。草丈：やや長い、葉数：平年並、葉数：やや多。(石狩振興局7月15日現在)</p> <p>(後志) 生育は順調で、平年より5日早く生育している。草丈：長い、葉数：平年並、葉数：多い。(後志総合振興局7月15日現在)</p> <p>(胆野) 好天により、生育は早い(早6日)。草丈：やや長、葉数：やや多、葉数：多。(胆野総合振興局7月15日現在)</p> <p>(日高) 生育は平年より5日早く生育している。草丈：やや長、葉数：平年並、葉数：多。(日高振興局 7月15日現在)</p> <p>(渡島) 生育は平年より5日早く生育。幼穂形成期は7月9日。草丈：長い、葉数：平年並、葉数：平年並。(渡島総合振興局7月15日現在)</p> <p>(津軽) 生育は順調で、平年より4日早い。草丈：平年並、葉数：やや多い、葉数：やや多い。(津山振興局7月15日現在)</p> <p>(上川) 生育は、平年より5日早く生育している。草丈：やや長、葉数：平年並、葉数：やや多。(上川総合振興局7月15日現在)</p> <p>(留萌) 好天により生育は順調である(早6日)。草丈：やや長い、葉数：平年並、葉数：平年並。(留萌振興局7月15日現在)</p> <p>(オホーツク) 生育は進んでいる(早6日)。草丈：平年並、葉数：やや少ない、葉数：少ない(オホーツク総合振興局7月15日現在)</p>	<p>・イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報</p> <p>・北東北の一部地域では、フオロビョウガの発生は「多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)</p> <p>・注情報一 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月23日公表)</p> <p>・斑点米カメムシ類(アカヒゲホソドリカメ、アカスジカメ) 県内全域で発生時期が早く(アカヒゲホソドリカメ、発生量多い)</p> <p>・注情報二 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月24日公表)</p> <p>・注情報三 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月24日公表)</p> <p>・注情報四 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月24日公表)</p>
岩手		<p>(生育) 県全体平均では、草丈57.7cm(平年より2.1cm長い)、葉数596本/m<sup>2</sup>(平年比109%)、葉数は10.5葉(平年より0.3葉多い)といずれも平年を上回っているが、沿岸地域を中心に生育の進み方は緩慢になってきている。各種とも生育は平年を上回り、収穫確保に必要な葉数は各地とも確保されている。葉色は各地とも低傾向。</p> <p>生育診断用の品種別集計表(各農業改良普及センター調べ)</p> <p>「あきたこまち」草丈57.8cm(平年差+1.2cm)、葉数549本/m<sup>2</sup>(平年比106%)、葉数は10.0葉(平年差-0.2枚)</p> <p>「どんとじり」草丈59.3cm(平年差+0.2cm)、葉数506本/m<sup>2</sup>(平年比104%)、葉数は10.6葉(平年差+0.5枚)</p> <p>「ひとめぼれ」草丈61.2cm(平年差+2.4cm)、葉数619本/m<sup>2</sup>(平年比112%)、葉数は11.0葉(平年差+0.3枚)</p> <p>(中央農業改良普及センター 県域普及グループ 7月10日現在)</p> <p>・北上(農業改良普及センター) 「ひとめぼれ」「あきたこまち」の草丈は平年より長く、葉数は「ひとめぼれ」では平年よりやや多く、「あきたこまち」では平年並みとなっている。葉数は平年より多く、葉色は平年並みとなっている。「あきたこまち」は7月21日(平年より5日遅)、 「ひとめぼれ」は7月26日(平年より3日遅)に減数分裂期に入った。</p> <p>・結束(東北農業改良普及センター) 「いわたつち」の草丈は平年より長く、葉数も平年より多い。葉数の減少が進み、現時点では平年を下回るに至っている。葉色は平年を上回っている。幼穂形成期は7月20日(平年より4日遅)に入った。(岩手県農業改良普及センター他 7月26日現在)</p>	<p>・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報</p> <p>・イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報</p> <p>・北東北の一部地域では、フオロビョウガの発生は「多い」予報。(農林水産省 7月10日発表)</p> <p>・注情報一 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月14日発表)</p> <p>・平年より多くの水田雑穀でカメムシ類が発生・発生量も多い。(岩手県病害虫防除所 7月14日公表)</p> <p>・東北の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」と予報。斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報</p> <p>・北東北の一部地域では、フオロビョウガの発生は「多い」予報。(農林水産省 7月10日発表)</p> <p>・いもち病ややや多い予報。斑点米カメムシ類は平年並の予報。(岩手県病害虫防除所 6月30日付)</p>
宮城		<p>(生育) (県全体) 水稻の生育は平年と比べて早く、生育の早いものは減数分裂期に入っている。出穂期(県全体の平均)は8月1日頃になる見込み。生育については、草丈が72.1cm(平年比100%)、葉数は541本(平年比107%)、葉数は12.0枚(平年差+0.2枚)。(7月18日現在) 草丈は速く伸びたため、草丈の出穂が確保されている。(7月24日現在)</p> <p>(大河原) 平年と比べ草丈は並～やや短め、葉数はやや多め、葉数は平年並～やや多め。全ての調査地で、低温の影響を受けやすい種ばかり(幼穂形成初期～出穂直前)となっており、平坦地～丘陵地の早かった中生育地では、減数分裂期(幼穂3～12cm、出穂11～17日頃)に入っている。平坦地の中生品種の出穂期は、8月1日頃と推定される。(7月11日現在の予報)</p> <p>(大川原) 平年と比べ草丈は並～やや短め、葉数はやや多め、葉数は平年並～やや多め。全ての調査地で、低温の影響を受けやすい種ばかり(幼穂形成初期～出穂直前)となっており、平坦地～丘陵地の早かった中生育地では、減数分裂期(幼穂3～12cm、出穂11～17日頃)に入っている。</p> <p>(百瀬) 稲穂の成長は速く、葉数は多い。幼穂形成期～減数分裂期に入った。生育は平年と比較して4～5日早まっていると予測される。圃場数は、葉数の増加は種別によっており、各品種とも幼穂が確認され、幼穂形成期に入ると見られる。生育ステージは、4～5日早く進んでおり、出穂期は7月31日～8月2日と予想。</p> <p>(道庁農業改良普及センター 7月10日及び18日調査)</p> <p>(仙台) 減数分裂期(出穂直前)まであと15日程。いもち病発生が早く見られた。今度も「倒伏危険域」にある圃場は確認は無い。出穂期は7月5日～7月17日(平年差-8日)になると見込まれる。</p> <p>(仙台農業改良普及センター 7月18日調査)</p> <p>(大納) 平年と比べ草丈は約5cm長く、葉数は10～30%多い。葉色は平年より濃く、幼穂の伸長は平年より早く、平坦・丘陵地では7月15日ごろに減数分裂期に入っている。山間地の減数分裂期は7月22日ごろに入ると見られる。出穂期は平年、丘陵地では8月3日頃、山間地では8月7日ごろと予測される。</p> <p>(大崎農業改良普及センター 7月20日調査)</p> <p>(栗原) 稲穂の成長は、平年より気温が高く推移したことにより生育は例年と比べて早く、出穂期は平年より6日早く8月1日頃となる見込み。ひとめぼれ、ササニシキについては、7月16日～18日頃に減数分裂期(幼穂長3～12cm、出穂15～16日頃)に入ったとみられる。つや姫については、7月16日頃に幼穂形成初期(幼穂長1cm、出穂25～26日頃)に入ったとみられる。</p> <p>圃場数は、松山線コシヒカリ清水直播栽培、牛田の乾田直播栽培圃場では、幼穂形成初期に入っている。鹿島台間伐、大迫でも、1mm未満であるが幼穂が確認されている。稲穂の成長より10日遅れて直播栽培圃場も幼穂形成期に入っているとみられる。</p> <p>(鹿島農業改良普及センター 7月18日調査)</p> <p>(栗原) 「ひとめぼれ」の生育は、草丈：平年並(平年比101%)、葉数：平年より多い(平年比117%)、葉数：(ほぼ)平年並(平年差+0.2枚) 葉色：ほぼ平年並(平年比99%)、幼穂長：平年より長い(平年差+62mm)、管内の多くの圃場で減数分裂期に入っていると見られる。移穂期の草丈は圃場間で差が30cm程度になっており、約1週間の出穂差を要すると見られる。</p> <p>(鹿島農業改良普及センター 7月18日調査)</p> <p>(巻米) 平年と比べ草丈はほぼ平年並、葉数は圃場によってバラツキがあるが、平年並～やや多め、葉数は平年並～やや多め、葉色はやや濃い。稲穂の成長は圃場間で差が30cm程度になっており、約1週間の出穂差を要すると見られる。</p> <p>(巻米農業改良普及センター 7月18日調査)</p> <p>(石巻) 7月18日現在の生育状況は、葉数は圃場によるばらつきがあるものの、調査地平均で530本/m<sup>2</sup>(平年比99%)と概ね平年並、葉色は、調査地平均で32.9時(平年差-1.0時)と概ね平年並で、圃場葉色値を下回っている。幼穂長は13～70mmで、稲穂が早い調査地では減数分裂期(幼穂長30mm)に入っており、管内で減数分裂期(葉長30mm)となる圃場も、平均では43mm(平年差+3mm)で、平年より生育が進んでいる。7月22日現在、出穂期は平年より5日早く8月1日頃と予想。</p> <p>(石巻農業改良普及センター 7月18日、22日調査)</p> <p>(本吉) 生育は平年より進んでいる状況。気仙沼市の生育調査は(ひとめぼれ)では、草丈は平年並(平年比103%)、葉数は多い(平年比119%)、葉数は平年よりやや多(平年差+0.5枚)となっている。圃場の生育調査(ササニシキ)では、草丈は平年並(平年比99%)、葉数は少ない(平年比85%)、葉数は少ない(平年差-0.9枚)となっている。圃場生育調査はとも、幼穂長は12～26mm程度で、出穂18日頃、出穂期は8月5日と推定され、平年より早まる見込み。管内の平均出穂期間(5月平均)は8月7日～14日、現時点では、本年は平年より早まると推定される。</p> <p>(本吉農業改良普及センター 7月20日調査)</p>	<p>・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報</p> <p>・イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報</p> <p>・北東北の一部地域では、フオロビョウガの発生は「多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)</p> <p>・注情報一 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月10日発表)</p> <p>・注情報三 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月10日発表)</p> <p>・注情報四 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月10日発表)</p> <p>・注情報五 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月10日発表)</p>
秋田		<p>(生育) (鹿角) 草丈66.5cm(平年比106%)、葉数11.4葉(平年差+0.5)、葉数553本/m<sup>2</sup>(平年比96%)、葉色38.9(平年比95%)で、葉色は圃場間との差が大きく急速に追肥が必要な圃場も見受けられる。幼穂長は8mmで幼穂形成期を2～3日過ぎ、平年より早くとなっている。(7月15日現在)</p> <p>(北秋田) あきたこまちは生育は、草丈65.6cm(平年比103%)、m<sup>2</sup>当たり葉数544本(94%)、葉数11.2(平年差-0.1)葉、葉色38.8(平年比91%)と、平年と比べ「草丈はやや長く、葉数は少なく、葉数は平年並、葉色は濃い」状況。(7月15日現在)</p> <p>(山本) 草丈66cm(平年比100%)、葉数567本/m<sup>2</sup>(平年比110%)、葉色40.5(96%)、葉数11.3葉(同差0.3)で「平年に比べ葉数は多く、葉色は濃い」。(7月15日現在)</p> <p>(秋田) 生育は順調で進んでいる。幼穂形成期から減数分裂期となっており、今年の出穂期は平年より早まる見込み。(7月25日現在)</p> <p>(由利) 生育の早い圃場では減数分裂期に入っており、葉色や生育の状態を見ながら減数分裂期の追肥作業が行われている。(7月25日現在)</p> <p>(仙北) 草丈67.7cm(平年比103%)、葉数574本/m<sup>2</sup>(平年比113%)、葉数10.8(平年差-0.2)葉、葉色39.8(平年比99%)となっている。葉数は多く、葉色、葉数は平年並、多くの圃場で幼穂形成期を過ぎている。(7月15日現在)</p> <p>(平泉) 草丈77.3cm(平年比99%)、葉数552本/m<sup>2</sup>(平年比125%)、葉数12.2葉(平年比+0.2)葉、葉色40.2(平年比98%)と葉数が平年より多く進んでいる。出穂は平年より早まる見込み。(7月25日現在)</p> <p>(雄勝) 葉数11葉(平年差+0.1)、草丈63.5cm(平年比99%)、葉数553本/m<sup>2</sup>(平年比106%)、葉色41.7(平年比96%) (7月15日現在)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<p>・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報</p> <p>・イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報</p> <p>・北東北の一部地域では、フオロビョウガの発生は「多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)</p> <p>・注情報一 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月10日発表)</p> <p>・注情報三 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月10日発表)</p> <p>・注情報四 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月10日発表)</p> <p>・注情報五 斑点米カメムシ類(農林水産省 7月10日発表)</p>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。  
 注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

生育状況等		
山形	<p>・7月18日現在の平垣部「はえぬき」は、葉数はやや多く、草丈・葉数・葉色ともに平年並みとなり、良好な稲姿になっている。出穂期は、「あきたこまち」が平年より2日程度早く、「はえぬき」、「つや姫」が3日程度早く、「コシヒカリ」は、2日程度早まる予想。(山形の米日本一推進本部 7月18日現在)</p> <p>(庄内) 葉数が平年比123~134%と多く、草丈は短く、葉色は淡くなっている。平垣部ですでに10項目が開花中で、平年よりも生育が3日程度進んでいる。「つや姫」の生育は、草丈は並、葉数は指標より多く、葉数は指標並で、葉色は順調に低下している状況にある。直播栽培(カルバーコーティング) 出芽・節立ちは概ね良好。葉数が過剰気味のほ場も多くなっている。 (鉄コーティング) 葉数から見た生育は昨年と比較すると5日程度進んでいる。 (庄内総合支庁 6月30日現在)</p> <p>(北村山) 北村山平垣部の予想出穂期は、あきたこまち8月3~5日、ひとめぼれ8月6~8日、はえぬき8月8~10日、つや姫8月11~14日、つや姫8月10日頃。幼穂の生育が平年並みより、3日早く出穂すると予想される。 (庄内総合支庁北村山農業技術普及課 7月23日付)</p> <p>(東南村山) 草丈がやや短く、葉数はやや多く、葉色は平年並みとなっている。出穂予想(平垣部)は、はえぬき8月3日~6日、つや姫8月10日頃。幼穂の生育が平年並みより、3日早く出穂すると予想される。 (村山地域本部村山農業技術普及課 7月18日現在)</p> <p>(南郷) 「草丈・平年並み」、「葉数・多い」、「葉数・平年より3日程度早い」、「葉色・平年並み」の状況。出穂期は3日程度早い予想。 (山形の米日本一推進運動推進地域本部 7月18日現在)</p> <p>(最上) 生育診断は「はえぬき」は葉数が多く、葉数がやや濃み、葉色が濃く推察しており、出穂期は平年よりやや早まる見込み。しかし、依りて平垣部の生育は葉色は淡い。出穂予想は「はえぬき(平垣)」は8月6日(平年-2)、「つや姫(平垣)」は8月9日(平年-3)、「あきたこまち(中山間)」は8月4日(平年+0)。 (庄内総合支庁 7月18日現在)</p> <p>(酒田) 生育診断は「はえぬき、ひとめぼれ」の生育は、草丈は短く、葉数は概ね確保され、葉数が平年と比べ1葉近く進んでいる。葉色はやや濃い状況。今年は葉数の展開スピードが平年より3~5日程度早く、例年よりも播種期使用時期が早まる予想。早生~中生品種の今年の出穂は平年より3~5日早まると予測。つや姫の出穂は3日程度早まる予想。草丈は平年並み~やや短く、葉数の展開は早い、葉数は平年並み~やや多い、葉色は平年並み~やや濃い。(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 6月30日現在)</p> <p>(大南地域) 7月9日の大雨により、置賜地区・村山地区を中心として水稲などの冠水・浸水がみられたが、村山地区・最上地区では大半が既に排水されている。一方、置賜地区では南陽市赤湯地区の白竜湖周辺で水稲の冠水・浸水が継続しており、生育への影響が懸念される。(山形県 7月11日現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>・注意報第2号 斑点米カメムシ類の発生が県下全域でやや多い(山形県病害虫防除所 7月24日付)</li> <li>・村山管内の本田で、粟いもちの発生が確認されている。(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月23日付)</li> </ul>
福島	<p>(生育) 農業総合センターの生育調査では、草丈が平年並、葉数が郡山と全線で平年並から多く、相馬で平年より少なくなっている。また、幼穂形成時期は平年並から4日早まっている。(福島県農林水産部 7月15日現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>・粟いもちの発生拡大が懸念されている。(福島県病害虫防除所 7月16日公表)</li> <li>・斑点米カメムシ類が平年より多く確認されている。(福島県病害虫防除所 6月30日付)</li> </ul>
茨城	<p>(水戸市) 5月1日に移植した「あきたこまち」の出穂期は7月15日で平年より1日早かった。「コシヒカリ」の出穂期は、幼穂長からみて平年より2日早く予測される。商品種とも、葉数・葉色は平年並である。5月9日に移植した「コシヒカリ」出穂期は、幼穂長からみて平年より6日早く予測される。草丈・葉数、葉色は平年並である。(7月18日現在)</p> <p>(鉅野・碓氷) 4月28日に移植した「あきたこまち」の出穂期は7月9日であり、平年より4日早い。幼穂の生育程度から予測される「コシヒカリ」の出穂期は7月26日であり、平年並である。商品種とも、平年に比べ草丈は平年並、葉数は平年並、葉色は「あきたこまち」が並、「コシヒカリ」が淡い。5月7日に移植した「あきたこまち」は、幼穂の生育程度から予測される出穂期は7月18日であり平年より2日早く、「コシヒカリ」は7月20日であり平年より1日早く、商品種とも、平年に比べ草丈は並、葉数は並~やや少なく、葉色は「あきたこまち」が並、「コシヒカリ」が淡い。(7月22日現在) (県農業総合センター農業研究所)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月22日公表)</li> <li>・注意報第2号 斑点米カメムシ類の発生が県下全域で多い(茨城県病害虫防除所 7月22日公表)</li> <li>・7月上旬現在、すくい取り調査数は平年よりやや多い(茨城県病害虫防除所 7月22日公表)</li> </ul>
栃木	<p>(生育) ・早期栽培(コシヒカリ)の全体の生育(16ヶ所平均)は、草丈はやや低く(平年比98%)、葉数は平年並(100%)、葉色は0.1淡いことから、生育診断値(葉色×葉数)は平年比98%とやや小さい。葉齢が平年並、幼穂長は10.4cmで平年より4.1cm長く、幼穂長から予測すると出穂期は7月26日で、平年(8月3日)より8日早い。早稲コシヒカリ(5月4日移植)の出穂期は、宇都宮市で7月28~29日頃で平年より4日程度早く、大田原市では7月1日~2日で平年より5日程度早く1日程度早まる見込み。 ・普通栽培(あきたの夢)3ヶ所平均は、草丈は51.7cmで平年比86%と低く、葉数は431本/m<sup>2</sup>で平年比89%と少ない。葉齢は10.3で平年より0.1ほど多く、葉色は1.4で平年より0.1淡い。生育診断値(葉色×葉数)は7.00で平年比89%と小さい。(栃木県農政課 7月18日現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>・7月下旬~8月上旬の斑点米カメムシ類の発生量は平年より多い予報。(栃木県農業技術指導センター 7月18日公表)</li> </ul>
埼玉	<p>(生育) ・早期、早稲栽培の生育は、6月上旬の暑期により一時停滞気味であったが、その後回復し、草丈、葉数は概ね平年並みで、高温により幼穂分化はやや早まっている。早稲栽培の中干しも概ね順調に行われた。今後の生育は概ね順調に推移すると思われるが、向こう1か月は高温、蒸熱の可能性が高いことから、軟弱気味の生育となり、中干しが遅れたり不十分な場合は、倒伏の発生や弱小茎の増加が懸念される。出穂期は葉位の進展が進んでいることから、平年並から3日程度早まる予想される。普通栽培は、苗はやや軟弱気味であったが、活着は良好で、初期生育も順調。今後の生育は概ね順調に推移すると思われる。早稲栽培同様、中干しが遅れたり、不十分な場合は倒伏の発生や弱小茎の増加が懸念される。(埼玉県農林総合センター水田農業研究所 7月6日現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>・イネアオムシ第3世代成虫発生確認日は8月2日で平年より17日早い(埼玉県病害虫防除所 7月29日付)</li> </ul>
千葉	<p>(生育) ・全体的に生育の進みは早く、出穂期は、早生・中生品種は2~3日程度、また、晩生品種は3~5日程度早くなった。出穂期は「ふるさと」が9月12日頃から、「ふさこがね」が9月16日頃から、「コシヒカリ」が9月21日頃からと予測される。(千葉県農林水産部 7月29日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。南関東の一部地域では、ヒメトビウンカ及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> </ul>

		生育状況等
新潟	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- コシヒカリの早平均の出穂期は、8月7日で昨年より1日程度早まる見込み。こしいぶきの出穂期は、7月29日で昨年より2日程度早まる見込み。コシヒカリの葉色は、新発田、長岡、糸魚川、佐渡でやや濃く、新潟、魚沼、南魚沼、上越でやや濃くなっている。(新潟県農林水産部 7月24日現在)</li> <li>(新潟) 出穂期は昨年より3日程度早い見込み(播種間差大きい)。各地で葉いもちの発生が確認されている。(村上市農業普及指導センター 7月24日現在)</li> <li>(新発田) コシヒカリの葉色はやや濃い。葉数は多。葉色は前調査から低下し、やや濃い状況。草丈：85cm(106%)、やや長い。葉数：439本/m<sup>2</sup>(114%、多い)、葉数：12.7葉(+0.5葉、やや多い)、葉色：葉緑素計31.6(-1.9、やや濃い) 出穂期は昨年より1日程度早まる見込みだが、播種により幼穂長のばらつきが早らる。(新潟県農業改良普及センター 7月24日現在)</li> <li>(新潟) 葉色は目標(33.1)より生育傾向良好。(新潟県農業普及指導センター 7月24日現在)</li> <li>(新潟) コシヒカリの生育は、草丈並、葉色並(7月17日現在) 出穂期は、田植え日5月5日は出穂期8月4日、田植え日5月10日は8月5日、田植え日5月15日は8月6日と予測。(7月19日現在)(新潟県農業普及指導センター)</li> <li>(佐) 草丈は目標「並」、葉色は目標「並」、コシヒカリの葉色は緑色し、指標値「並」となり、分げ及び一発元肥とともに播種時の節間にある。コシヒカリの出穂期は、昨年並～1日程度早まる見込み。ゆきん子實の出穂期は7月24日頃で、昨年にくらべ2～3日程度早くなった。(新潟県農業普及指導センター 7月24日現在)</li> <li>(三条) コシヒカリの生育は概ね順調。連日雨で出穂期は8月4日頃と予測される。葉色が濃く、出穂期に目標とする葉色を維持できないと思われる地域が散見される。(三条県農業普及指導センター 7月24日)</li> <li>(長岡) コシヒカリは、現時点で出穂10～12日前頃(5月10日田植え)と推測される。こしいぶきは、出穂が始まっており、昨年より3日程度早まる見込み。コシヒカリの葉色は、全体平均では指標値よりやや濃くなっているが一部で葉色の低下が大きい地域がある。(長岡県農業普及指導センター 7月24日現在)</li> <li>(魚沼) 草丈、葉数、節間はやや多い。葉数：やや多い、葉色並～やや濃い。コシヒカリの出穂は昨年より2日程度早い見込み。出穂予想は、8月20日移穂(秋作)は8月1日、9月24日移穂(小出)は8月5日、9月25日移穂(入込)は8月10日の見込み。(JA北魚沼、魚沼農業普及指導センター 7月14日現在)</li> <li>(南魚沼) コシヒカリの生育は、指標値に比べ、草丈は「並」、葉数は「多」、葉色は「やや濃」となっている。(新潟県地域農業振興協議会、南魚沼農業普及指導センター 7月24日現在)</li> <li>(十日町) 十日町の生育は、平均部では草丈「やや短い」、葉数「密」、葉色「濃い」、高標高地(400m以上)では草丈「短い」、葉数「やや多い」、葉色「濃い」状況。出穂予想は、コシヒカリは8月8日、百万石は7月29日、こしいぶきは7月30日。こがねもちは8月2日。今後高温予想となっているため出穂期は早まる可能性がある。津南町の生育は、草丈「やや短い」、葉数「多い」、葉色「並」の状況。一部の中干しの遅れた地域では葉数が多くなっている。(十日町地域農業振興協議会 7月1日現在)</li> <li>(柏崎) コシヒカリの生育状況は、ほとんどの地域で幼穂長が1cm以上となっており、出穂期は、これまでの予想どおり、8月3日～5日頃と見込まれる。葉色は、指標値並となっているが、前回の調査(7/17)より大幅に低下している。(柏崎県農業普及指導センター 7月24日現在)</li> <li>(上越) 草丈、やや短い(指標値比109%)、葉数、多い(117%)、葉数、多い(+0.7葉)、葉色、やや濃い(葉色値+1.3) 昨年並みに生育量が多い。播種ごとに生育のバラツキが大きくなっている。コシヒカリの出穂は昨年より2、3日早い見込み。(5月10～15日頃の田植えの出穂期は8月4日頃、2回目換肥時期は7月25日頃)。(長岡県農業普及指導センター 7月24日現在)</li> <li>(糸魚川) コシヒカリは昨年と比較して草丈は短く、葉数が多い傾向で、葉数はほぼ昨年並みの生育となっている。播種に葉色が濃い地域が目立つ。(糸魚川県農業普及指導センター 7月17日現在)</li> <li>(佐渡) コシヒカリの生育は昨年並みで、出穂期は昨年並みの予想。葉色はやや濃い。出穂予想は8月8日。(佐渡県農業普及指導センター 7月24日現在)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予測。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予測。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>- 注：葉鞘-斑点米カメムシ類(農林水産省 7月16日発表)</li> <li>- 7月後半の葉いもちの発生は昨年並であるが、斑点米カメムシ類は多い～やや多い予測。(新潟県病害虫防除所 7月16日公表)</li> <li>- 7月は、稲こじ病の感染量が昨年並～やや多く、斑点米カメムシ類の発生がやや多い～多い予測。(新潟県病害虫防除所 6月27日公表)</li> </ul>
富山	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- (コシヒカリ) 草丈は昨年並み、葉数はやや濃み、葉数はやや多くなっている。葉色は昨年並みであり、ほとんどの地域で前回調査時に比べて同等から濃くなった。幼穂形成期は、昨年より7月11日となった。出穂期は昨年より2日程度早い。8月2日頃と見込まれる。(てんたかく) 5月5日に播種された「てんたかく」の出穂期は昨年より4日早い、7月19日となった。成熟期は、昨年より4日程度早い。8月4日頃と見込まれる。(富山県農業技術 広域普及指導センター 7月22日現在)</li> <li>(播種情報) <ul style="list-style-type: none"> <li>- 渚水士中直播種(カールバー)の生育状況は、草丈は77.3cm、葉数は522本/m<sup>2</sup>、葉数は11.7、葉色は4.0、葉数は昨年並みに比べてやや濃みであり、草丈と葉色は昨年並み、葉数はやや多くなっている。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ昨年より1日程度早い。7月17日頃、8月7日頃と見込まれる。</li> <li>- 渚水士直播種(鈴)の生育状況は、草丈は76.2cm、葉数は497本/m<sup>2</sup>、葉数は11.9、葉色は4.1、草丈、葉数、葉色とも渚水士中直播種と同等度となっている。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ昨年より4日程度早い。7月18日頃、8月8日頃と見込まれる。</li> <li>- 乾田/渚水直播種の生育状況は、草丈は77.8cm、葉数は535本/m<sup>2</sup>、葉数は11.3、葉色は3.9、近年に比べて葉数がかなり濃みであり、草丈はやや濃く、葉数は多くなっている。幼穂形成期と出穂期は、それぞれ昨年より4日程度早い。7月18日頃、8月9日頃と見込まれる。(富山県農業技術 広域普及指導センター 7月18日現在)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予測。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予測。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>- 注：葉鞘-斑点米カメムシ類(農林水産省 7月17日発表)</li> <li>- 斑点米カメムシ類が多い予測、斑点米被害の増加が懸念。(富山県農林水産総合技術センター 7月17日公表)</li> <li>- 7月の紋枯病の発生はやや多く、斑点米カメムシ類は多い予想</li> <li>- イナゴ類がやや多い予想(富山県農林水産総合技術センター 7月1日公表)</li> </ul>
石川	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ゆめみづほの出穂期は、昨年より4～5日早く、加算平均で7月16日、能登平均で7月19日となった。コシヒカリは、生育の早い加算地域で出穂期となっている地域が早ら。昨年より2日程度早く見込まれる。ゆめみづほ 加算 7月13日～19日(昨年より4～5日早い) 能登 7月18日～22日(昨年より4日早い) 能登みかり 能登 7月20日～22日(昨年より4日早い) コシヒカリ 加算 7月26日～30日(昨年より2日程度早い) 能登 7月30日～8月3日(昨年より1～2日早い)</li> <li>- m/あたり葉数は、コシヒカリは305本/m<sup>2</sup>、昨年比101%、加算地域101%、能登地域101%と昨年並である。(農林総合研究センター 7月28日調査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予測。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予測。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>- 7月後半は、穂いもちの発生はやや多、紋枯病の発生は多、斑点米カメムシ類の発生は多と予想。(石川県農林総合研究センター 7月9日付)</li> <li>- 7月前半のいもち病、紋枯病と斑点米カメムシ類の発生量はやや多い予測。(石川県農林総合研究センター 6月26日付)</li> </ul>
福井	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 渚田植えコシヒカリの草丈はかなり伸びたが昨年より短い。葉数は昨年より多い。幼穂形成期は7月10日前後に迎え、昨年より2～3日程度早い。</li> <li>- 渚播種コシヒカリの葉数は昨年より多く、穂付軽減剤を散布すべき圃場が多い見込まれる。幼穂形成期は7月13日前後に迎えている。</li> <li>- 平均部の早生種「あきたこまち」は、向こう1ヶ月の気温は「昨年並み～高い」と予想されていることから、刈り取り開始や成熟期は「昨年より早く、昨年並みに早まる」見込み。これから出穂を迎えるコシヒカリも同様の傾向になる見込み。(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月17日現在)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予測。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予測。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>- ニカメイガ(第2世代)の発生に注意1成虫の発生最盛期は7月下旬頃と予想(福井県農業試験場 7月25日付)</li> <li>- 7月は、ニカメイガ、イネアオシシ、イネアオシシの発生が昨年より多いと予想。斑点米カメムシ類の発生が多くなる恐れがあるとの注意報。(福井県農業試験場 7月1日付)</li> </ul>
長野	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 豊利(播種5月15日)では「あきたこまち」が7月26日、「美山錦」が7月27日に収穫期となった。早生種の出穂期は「昨年より3日早」。平均地コシヒカリでは8月5日前後に収穫を迎える見込み。</li> <li>- 平均部の早生種「あきたこまち、美山錦など」は、向こう1ヶ月の気温は「昨年並み～高い」と予想されていることから、刈り取り開始や成熟期は「昨年より早く、昨年並みに早まる」見込み。これから出穂を迎えるコシヒカリも同様の傾向になる見込み。(松本県農業改良普及センター 7月27日現在)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 注意報第2号 イネいもち病が県下全域(特に常習発生地、中山間地域)で発生する恐れがある。(長野県病害虫防除所 7月26日付)</li> </ul>

		生育状況等
滋賀	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、「コンヒカリ」、「秋の詩」とも平年より長かった。</li> <li>・葉数は、「コンヒカリ」は平年より多く、「秋の詩」は平年よりかなり多かった。「秋の詩」は平年比127%で、過去10年で最も多くなっている。</li> <li>・葉数は、「コンヒカリ」は平年より0.5枚多く、「秋の詩」は平年より0.2枚多かった。</li> <li>・葉色は、「コンヒカリ」、「秋の詩」とも平年並。</li> <li>・「コンヒカリ」の幼穂形成期は、平年より少し早い。7月4日に幼穂長1mmが確認され、平年(7月5日)より1日早く幼穂形成期を迎えている。ただし、気温の変動が大きく、移植時期等により、生育の遅延は異なっている。</li> <li>・「秋の詩」は、最高分け時期を迎えているが、平年に比べ、生育は旺盛。</li> <li>・「みずかみ」(新品種)は、4月下旬から5月上旬移植では、出穂期のピークは7月20日前後になる見込み。5月中旬移植では、7月1日〜7日に幼穂形成期を迎えており、出穂期のピークは7月26日前後になる見込み(滋賀県農業技術センター 6月30日現在)</li> </ul>
兵庫	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(県北) 葉数、葉数ともに平年を上回っている。特に葉数はかなり多くなっている。</li> <li>(県南) 葉数は平年を上回っている。葉数は平年並み〜やや少ない。(兵庫県農林環境部長 7月3日付)</li> </ul>
岡山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の一部地域では、斑点米カメシムの発生は「多い」と予報。</li> <li>・イネいもち病、イネ緑葉枯病及びヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>・注意報第2号</li> <li>・イネいもち病(寒いもち、穂いもち)の発生が県内全域で8月上旬以降多く発生する予報。(岡山県病害虫防除所 7月14日公表)</li> <li>・県中部での寒いもちの発生確率が平年より高くなっている。今後さらに広がる可能性がある(岡山県病害虫防除所 7月14日公表)</li> </ul>
広島		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の一部地域では、斑点米カメシムの発生は「多い」と予報。</li> <li>・イネいもち病、イネ緑葉枯病及びヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>・注意報第2号</li> <li>・いもち病(寒いもち、穂いもち)が県南部、県中部及び県中西部で多く発生(広島県西部農業技術指導所 7月25日公表)</li> </ul>
山口	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月17日に萩市・阿武町で早期コンヒカリの出穂が確認された。(山口農林水産部 7月22日)</li> <li>・コンヒカリ、7月17日頃</li> <li>・5月中旬穂長は現はらみ期。草丈と葉数は平年並み。葉数はやや多い(24本/株)。</li> <li>・5月下旬穂長は、幼穂形成期〜伸長期。草丈と葉数は平年並み。葉数はやや多い(24本/株)。</li> <li>・きぬむすめ・セノヒカリ(6月上旬頃)</li> <li>・きぬむすめは幼穂形成期前頃。草丈と葉数は平年並み。葉数は平年並(31本/株)。</li> <li>・ヒノヒカリは最高分け頃頃。草丈はやや短く、葉数は(19本/株)と葉数は平年並。</li> <li>・日照不足からやや軟弱な生育をしている。(山口県大津、長門農林事務所 7月22日)</li> </ul>
愛媛	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期栽培のあきたこまちは6月下旬、コンヒカリは7月上旬、短期栽培のあきたこまちは7月中下旬頃が穂肥時期となる。穂肥の施用時期は、幼穂長の観察による生育診断等の適期予測が重要。(愛媛県農林水産部/農林水産研究所 7月4日公表)</li> </ul>
高知	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期栽培の作柄は、6月下旬の低温・日照不足により出穂に遅れがみられるもの総じて全もみ数は平年並みないしやや多いと見込まれることから「平年並み」が見込まれる。(農林水産省 7月15日現在)</li> <li>・早期型 出穂期は、前年より(4月4日移植)は6月23日、早穂系コンヒカリ(4月4日移植)は7月5日、標準系コンヒカリ(4月4日移植)は7月7日、いずれの品種、作柄とも平年より2〜3日遅れている。</li> <li>・普通型 普通型では、6月3日にヒノヒカリを移植した。移植後気温が低く推移したため、6月は生育遅延(葉数)が遅く、葉数は少なく推移した。7月7日時点では、葉数は高次分け時の発生によって平年よりやや多いものの、草丈は平年よりやや短く、葉数(生育遅延)もやや遅れている。(高知県農業技術センター 7月9日時点)</li> </ul>
福岡	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月10日移植のまつくしでは、草丈は平年より5%低く、主穂葉数は平年より0.4葉少ないが、葉数は平年に比べ22%多い(降雨により由于しが不十分となった影響)。</li> <li>・6月20日移植のヒノヒカリでは、草丈は平年並〜13%高く、葉数は平年並〜17%少なく、主穂葉数は平年並〜0.7葉少ない。(福岡県農林業総合試験場 7月18日付)</li> </ul>
熊本		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州の一部地域では、イネいもち病、イネ緑葉枯病、トビイロウンカ及び斑点米カメシムの発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>・県内の中山間地一部において寒いもちの発生が多い地区がある。(福岡県病害虫防除所 7月18日公表)</li> <li>・7月のセジロウンカの発生量は平年より少く前年並み。トビイロウンカの発生量は平年並で前年より少。(福岡県病害虫防除所 7月3日公表)</li> </ul>
宮崎	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期栽培の作柄は、6月下旬の低温・日照不足により出穂に遅れがみられるもの総じて全もみ数は平年並みないしやや多いと見込まれることから「平年並み」が見込まれる。(農林水産省 7月15日現在)</li> <li>・南九州の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> <li>・向こう1か月の予報(普通型水稲) 寒いもち、軟腐病、セジロウンカ、ヒメトビウンカは「平年並」。トビイロウンカは「やや多」。ツマグロヨコバイ、コブメノメイガは「やや少」。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月25日公表)</li> </ul>
鹿児島	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南九州の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</li> </ul>

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	参考 生産数量目標				収穫量(主食用) 25年産	作況指数 25年産
		平成26年産	前年産との比較	増減率	%		
全 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏にエルニーニョ現象が発生する可能性はこれまでの予測より低くなった。秋に発生する可能性が高い。（気象庁 7月10日発表）</li> <li>7月26日～8月25日の1か月間は、北日本では気圧の谷の影響で、向こう1か月の日照時間は平年並か少なく、降水量は平年並が多い見込み。</li> <li>東・西日本太平洋側では、期間の初めは晴れる日が多いため、向こう1か月の日照時間は平年並が多い見込み。</li> <li>向こう1か月の気温は、全国的に平年並か高い見込み。（気象庁 7月24日発表）</li> <li>（8～10月の3か月間の見通し）</li> <li>8月の北日本は、前線や低気圧の影響で、降水量は平年並か平年より多い見込み。</li> <li>9月は全国的に暖かい空気に覆われやすく、気温は全国的に平年並か平年より高い見込み。</li> <li>北・東日本では、9月も暖かい空気に覆われやすく、気温は平年並か平年より高い見込み。</li> <li>10月は気温・降水量ともにほぼ平年並の予報。</li> <li>秋にエルニーニョ現象が発生する可能性が高くなっている。（気象庁 7月25日発表）</li> </ul>						
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道地方の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</li> <li>期間の前半は、気圧の谷の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多い見込み。</li> <li>気温は、1週目は平年並か高く、2週目は平年並、3～4週目は平年並か高い見込み。（札幌管区気象台 7月24日発表）</li> </ul>	554,140	▲ 18,800	▲ 3.3	601,300	105	
青 森	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北地方の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</li> <li>気圧の谷の影響で、平年に比べ晴れの日が少ない見込み。</li> <li>期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並の見込み。期間の後半は、数日の嵐で変わり、気温は平年並か高い見込み。（仙台管区気象台 7月24日発表）</li> </ul>	247,000	▲ 12,220	▲ 4.7	272,100	104	
岩 手	同上（仙台管区気象台 7月24日発表）	275,540	▲ 10,810	▲ 3.8	287,800	102	
宮 城	同上（仙台管区気象台 7月24日発表）	362,630	▲ 18,140	▲ 4.8	388,600	104	
秋 田	同上（仙台管区気象台 7月24日発表）	433,040	▲ 13,390	▲ 3.0	450,200	100	
山 形	同上（仙台管区気象台 7月24日発表）	358,570	▲ 15,630	▲ 4.2	386,100	102	
福 島	同上（仙台管区気象台 7月24日発表）	348,420	▲ 7,440	▲ 2.1	368,600	104	
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東甲信地方の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。</li> <li>太平洋高気圧に覆われ、1週目は平年に比べ晴れの日が多く、2週目は平年と同様に晴れの日が多い見込みだが、湿った気流の影響で雷雨のところがみられると予報。3～4週目は平年と同様に晴れの日が多い見込み。（気象庁 7月24日発表）</li> </ul>	341,550	▲ 7,340	▲ 2.1	398,900	104	
栃 木	同上（気象庁 7月24日発表）	309,330	▲ 12,220	▲ 3.8	334,900	102	
埼 玉	同上（気象庁 7月24日発表）	152,680	▲ 3,920	▲ 2.5	165,900	98	
千 葉	同上（気象庁 7月24日発表）	249,280	▲ 6,420	▲ 2.5	329,100	104	
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸地方の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間もほぼ平年並の見込み。</li> <li>1週目は気圧の谷や湿った空気の影響で平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年並の見込み。</li> <li>2～4週目は太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れる日が多く、気温は平年並か高い見込み。（新潟地方気象台 7月24日発表）</li> </ul>	535,640	▲ 10,030	▲ 1.8	594,400	103	
富 山	同上（新潟地方気象台 7月24日発表）	192,340	▲ 3,920	▲ 2.0	198,200	102	
石 川	同上（新潟地方気象台 7月24日発表）	126,400	▲ 3,000	▲ 2.3	130,500	101	
福 井	同上（新潟地方気象台 7月24日発表）	128,130	▲ 5,230	▲ 3.9	134,700	102	
長 野	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東甲信地方の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。</li> <li>太平洋高気圧に覆われ、1週目は平年に比べ晴れの日が多く、2週目は平年と同様に晴れの日が多い見込みだが、湿った気流の影響で雷雨のところがみられると予報。3～4週目は平年と同様に晴れの日が多い見込み。（気象庁 7月24日発表）</li> </ul>	196,640	▲ 7,760	▲ 3.8	213,000	101	

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	%	t	t	
滋賀	・近畿地方の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並か多い見込み。 太平洋高気圧に覆われて平年に比べ晴れの日が多い見込み。 2週目は上空の寒気や湿った気流の影響で雷雨の所がある見込み。 気温は、1週目は平年並、2～4週目は平年並か高い見込み。 （大阪管区気象台 7月24日発表）	163,380	▲ 7,000	▲ 4.1	169,300	102
兵庫	同上（大阪管区気象台 7月24日発表）					
岡山	・中国地方の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多くなるが、2週目は上空の寒気等の影響で雷雨の発生しやすい時期がある見込み。 気温は、1週目は平年並、2～4週目は平年並か高い見込み。 （広島地方気象台 7月24日発表）	181,930	▲ 6,010	▲ 3.2	189,800	100
広島	同上（広島地方気象台 7月24日発表）	160,190	▲ 5,850	▲ 3.5	163,800	97
山口	・九州北部地方（山口県含む）の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温、降水量、日照時間ともにほぼ平年並の見込み。 1週目は、はじめは太平洋高気圧に覆われて曇れ晴れますが、中頃から湿った気流の影響で曇りがちです。その影響で気温は平年並か低い見込み。 2週目以降は、太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並か高い見込み。 （福岡管区気象台 7月24日発表）	130,130	▲ 4,270	▲ 3.2	132,600	99
愛媛	・四国地方の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。 太平洋高気圧に覆われて、平年に比べ晴れる日が多い見込み。 気温は、1週目は平年並、2～4週目は平年並か高い見込み。 （高松地方気象台 7月24日発表）	110,820	▲ 5,530	▲ 4.8	111,000	97
高知	同上（高松地方気象台 7月24日発表）	74,490	▲ 1,690	▲ 2.2	74,900	99
福岡	・九州北部地方（山口県含む）の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温、降水量、日照時間ともにほぼ平年並の見込み。 1週目は、はじめは太平洋高気圧に覆われて曇れ晴れますが、中頃から湿った気流の影響で曇りがちです。その影響で気温は平年並か低い見込み。 2週目以降は、太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並か高い見込み。 （福岡管区気象台 7月24日発表）	50,050	▲ 1,700	▲ 3.3	57,900	98
熊本	同上（福岡管区気象台 7月24日発表）	184,380	▲ 6,860	▲ 3.6	182,500	96
宮崎	同上（福岡管区気象台 7月24日発表）	189,920	▲ 7,790	▲ 3.9	188,300	97
鹿児島	・九州南部地方の7月26日～8月25日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。 太平洋高気圧に覆われ、平年に比べ晴れの日が多い見込み。 気温は、1週目は平年並、2～4週目は平年並か高い見込み。 （鹿児島地方気象台 7月24日発表）	94,470	▲ 4,660	▲ 4.7	92,600	100
	同上（鹿児島地方気象台 7月24日発表）	111,540	▲ 3,980	▲ 3.4	112,500	101



参考資料:

[平成26年度産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況\(7月15日現在\)\(農林水産省\)](#)

[平成26年度産米の都道府県別の生産数量目標について\(農林水産省\)](#)

[平成25年度産水陸稲の収穫量\(農林水産省\)](#)

[「平成26年度 病害虫発生予報第5号」の発表について\(農林水産省 7月24日\)](#)

[農作物の生育状況 7月15日現在\(北海道 7月18日\)、農作物生育状況 7月15日現在\(北海道空知総合振興局 7月18日\)、](#)

[農作物の生育状況 7月15日現在\(北海道石狩振興局 7月18日\)、農作物の生育状況 7月15日現在\(北海道後志総合振興局 7月18日\)、](#)

[農作物の生育状況 7月15日現在\(北海道胆振総合振興局 7月18日\)、農作物の生育状況 7月15日現在\(北海道日高振興局 7月18日\)、](#)

[農作物の生育状況 7月15日現在\(北海道渡島総合振興局 7月18日\)、農作物の生育状況 7月15日現在\(北海道檜山振興局 7月18日\)、](#)

[農作物の生育状況 7月15日現在\(北海道上川総合振興局 7月18日\)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在\(北海道留萌振興局 7月18日\)](#)

[農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在\(北海道オホーツク総合振興局 7月4日\)、病害虫発生予察情報第8号7月予報・第9号\(北海道病害虫防除所\)、](#)

[病害虫発生予察情報第11号注意報第5号\(北海道病害虫防除所\)、H26水稲作況\(7月20日現在\)\(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月23日\)、](#)

[稲作生産情報第6号\(7月15日現在\)\(青森県 7月22日\)、平成26年度病害虫発生予察情報注意報第1号、第2号\(青森県病害虫防除所 7月25日\)、](#)

[平成26年度水稲の生育状況\(7月10日現在速報\)\(中央農業改良普及センター 県域普及グループ 7月16日\)](#)

[平成26年度水稲生育定期調査結果No.6\(岩手県農業研究センター技術部作物研究所・県北農業研究所作物研究室 7月25日\)、](#)

[平成26年度病害虫発生予察情報第4号・注意報第3号\(岩手県病害虫防除所\)、平成26年度病害虫防除速報No.4 水稲編-2\(岩手県病害虫防除所\)、](#)

[平成26年度産水稲の生育状況について\(7月18日現在\)、平成26年度産水稲の出穂状況について\(7月24日現在\)\(宮城県農林水産部\)、](#)

[平成26年度産稲作技術情報\(第6号\)\(宮城県大河原農業改良普及センター 7月23日\)、平成26年度産稲作情報\(第5号\)\(宮城県亶理農業改良普及センター 7月25日\)、](#)

[仙台稲作情報第9号\(宮城県仙台農業改良普及センター 7月22日\)、](#)

[平成26年度産稲作技術情報第8号\(宮城県大崎農業改良普及センター 7月18日\)、平成26年度産美里地区の稲作情報第7号\(宮城県美里農業改良普及センター 7月22日\)、](#)

[栗原の稲作通信平成26年第6号\(宮城県栗原農業改良普及センター宮城県米づくり推進栗原地方本部 7月22日\)、](#)

[登米地域の稲作通信第7号\(宮城県登米農業改良普及センター 7月18日\)、稲作情報Vol.6\(石巻農業改良普及センター 7月22日\)、](#)

[稲作情報Vol.6\(本吉農業改良普及センター 7月22日\)、平成26年度発生予察情報発生予報第7号\(概要版\)\(宮城県病害虫防除所 7月23日\)、](#)

[平成26年度発生予察情報発生予報情報注意報第1号\(宮城県病害虫防除所 7月4日\)、](#)

[生育状況の情報\(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」http://www.e-komachi.jp/ 7月25日\)、](#)

[平成26年度農作物病害虫発生予察情報発生予察情報注意報第3号、第4号\(秋田県病害虫防除所 7月28日\)、](#)

[平成26年度農作物病害虫発生予察情報注意報第2号\(秋田県病害虫防除所 平成26年7月10日\)、](#)

[米づくり技術情報No.4\(山形の米日本一推進運動本部 6月30日\)、つや姫だより第5号7月3日、おいしい米づくり情報第8号7月2日、直播稲作情報第4号7月3日\(庄内総合支庁\)](#)

[稲作だより第7号出穂期管理編、つや姫だより第8号\(村山地域本部・村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月23日\)、](#)

[おいしい米づくり情報第6号出穂・水管理編\(村山地域本部・村山農業技術普及課 7月22日\)、](#)

[おきたま米づくり情報No.9\(山形の米日本一推進運動圏置地域本部 7月22日\)、稲作だより第10号病害虫防除編\(最上総合支庁農業技術普及課 7月22日\)、](#)

[酒田・飽海米づくり情報第7報\(酒田農業技術普及課 7月9日\)、酒田・飽海つや姫情報第6号\(庄内総合支庁 7月9日\)、](#)

[平成26年度農作物有害動物発生予察情報注意報\(山形県病害虫防除所 7月24日\)、平成26年度病害虫防除情報\(福島県病害虫防除所 7月16日\)、](#)

[主要な農作物の生育状況平成26年度第4号\(福島県農林水産部 7月25日\)、水稲の病害虫防除対策\(6月\)\(福島県病害虫防除所\)、](#)

[農研速報\(水稲の生育状況\)\(7月18日現在、水戸市\)\(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月22日\)、](#)

[農研速報\(水稲の生育状況\)\(7月22日現在、龍ヶ崎市\)\(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月22日\)、](#)

[病害虫速報No.5\(茨城県病害虫防除所\)、病害虫発生予察注意報第2号\(茨城県病害虫防除所 7月29日\)、](#)

[那珂川治水対策支部の解散について\(国土交通省関東地方整備局\)、](#)

[平成26年度水稲生育診断予測事業速報No.5\(早期栽培・普通植栽7月18日調査結果\)\(栃木県農政部 7月23日\)、](#)

[平成26年度病害虫発生予報第3号・第4号\(栃木県農業環境指導センター\)、平成26年度病害虫発生予察注意報第1号\(栃木県農業環境指導センター\)、](#)

[平成26年度水稲の生育概況Vol.2\(平成26年7月6日現在\)\(埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所\)、](#)

[平成26年度イネアオムシ発育予測第3報\(埼玉県病害虫防除所 7月29日\)、水稲の生育状況と当面の対策第5報\(千葉県農林水産部 7月29日\)、](#)

[水稲の生育状況と今後の管理対策第7号\(新潟県農林水産部 7月25日\)、岩船米生育速報\(7月24日現在\)\(村上農業普及指導センター\)、](#)

[新発田地域水稲育成速報No.7\(7月24日調査\)\(新発田農業普及指導センター 7月24日\)、新潟稲作速報No.7\(新潟農業普及指導センター 7月24日\)、](#)

[水稲生育速報\(巻農業普及指導センター 7月24日\)、FAX稲作速報\(三条農業普及指導センター 7月24日\)、水稲生育速報\(長岡農業普及指導センター 7月24日\)、](#)

[7月10日現在の生育状況と今後の管理\(魚沼農業普及指導センター 7月15日\)、稲作情報\(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月14日\)、](#)

[稲作情報No.9\(南魚沼農業普及指導センター 7月24日\)、稲作情報No.4\(十日町版\)\(十日町地域農業振興協議会他\)、](#)

[稲作情報No.4\(津南町版\)\(十日町地域農業振興協議会他\)、稲作管理情報7\(柏崎農業普及指導センター 7月24日\)、](#)

[水稲生育速報・コンヒカリ\(7月24日\)\(上越農業普及指導センター、上越農林事務所 7月24日\)、平成26年度糸魚川売れる米づくり情報メルマガNo.6\(糸魚川農業普及指導センター\)](#)

[平成26年度 稲作生育速報 No.7\(佐渡農業普及指導センター 7月24日\)、平成26年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第4号\(7月の発生予想\)\(新潟県病害虫防除所\)、](#)

[平成26年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号\(7月後半の発生予想\)\(新潟県病害虫防除所\)、TACS情報第9号・\(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月22日\)、](#)

[直播情報第6号\(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月18日\)、病害虫発生予報第4号・病害虫発生注意報第2号\(富山県農林水産総合技術センター\)](#)

[平成26年度産水稲の生育状況と今後の対策\(水稲生育診断技術確立調査-9号\)\(石川県農林総合研究センター 7月28日\)、病害虫発生予報第3・4号\(石川県\)、](#)

[稲作情報No.11\(稲作情報作成委員会・水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月18日\)、平成26年度農作物病害虫発生予察予報第5号\(福井県農業試験場\)、](#)

[平成26年度農作物病害虫発生予察注意報第2号\(福井県農業試験場\)、病害虫防除だよりNo.282\(農業試験場病害虫防除室 7月25日\)](#)

[平成26年度作物技術普及情報第15号\(長野県松本農業改良普及センター 7月27日\)、病害虫発生予察注意報第2号\(長野県病害虫防除所 7月25日\)](#)

[平成26年度水稲生育診断情報No.3\(滋賀県農業技術振興センター 7月8日\)、平成26年度防除情報第3号\(滋賀県病害虫防除所 7月24日\)、](#)

[平成26年度病害虫発生予察予報第3号\(兵庫県病害虫防除所\)、平成26年度兵庫県農業気象技術情報第3号\(7月情報\)について\(兵庫県農政環境部 7月3日\)、](#)

[平成26年度病害虫発生予報第4号・植物防疫情報第2号、注意報第2号\(岡山県病害虫防除所\)、稲作ワンポイントアドバイス\(No.6\)\(JA長門大津・長門農林事務所 7月22日\)、](#)

[平成26年度病害虫発生予察情報注意報第2号\(広島農林水産局 7月25日\)](#)

[農作物病害虫発生予報7月\(山口県病害虫防除所\)、平成26年度農作物病害虫発生予察注意報第2号・第3号\(山口県 7月18日\)](#)

[気象情報に基づく技術対策・作物\(平成26年7月\)\(愛媛県 7月4日\)、病害虫発生予報\(6月\)\(愛媛県\)、病害虫発生予報\(7月\)\(愛媛県\)、](#)

[平成26年度水稲生育状況\(7/9時点\)\(高知県農業技術センター\)、福岡県米麦大豆生育情報\(福岡県農林業総合試験場 7月18日\)、](#)

[平成26年度病害虫発生予察第4号7月報・技術情報第1号\(福岡県病害虫防除所 7月18日\)、](#)

[管内JAニュース\(JAグループ熊本ホームページhttp://www.ja-kumamoto.or.jp\)、平成26年度病害虫発生予報第4号\(7月予報\)・技術情報第6号\(熊本県病害虫防除所\)、](#)

[平成26年度宮崎県早期米産地情報\(平成26年6月15日現在\)\(宮崎経済連ホームページhttp://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html 7月4日\)、](#)

[平成26年度病害虫発生予報第4号\(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター\)、平成26年度病害虫発生予報第4号\(7月\)\(鹿児島県病害虫防除所\)](#)

エルニーニョ監視速報(No.262)(気象庁 地球環境・海洋部)

[北海道地方方向こう1か月の天候の見通し\(札幌管区気象台\)、](#)

[東北地方方向こう1か月の天候の見通し\(仙台管区気象台\)、](#)

[関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し\(気象庁\)、](#)

[北陸地方方向こう1か月の天候の見通し\(新潟地方気象台\)、](#)

[近畿地方方向こう1か月の天候の見通し\(大阪管区気象台\)、](#)

[中国地方方向こう1か月の天候の見通し\(広島地方気象台\)、](#)

[四国地方方向こう1か月の天候の見通し\(高松地方気象台\)、](#)

[九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し\(福岡管区気象台\)、](#)

[九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し\(鹿児島地方気象台\)](#)